

宮崎県市町村・地域づくり団体協働モデル事業

子育て支援がつなぐ まちづくり

プチ・コパン

宮崎市
福祉部子ども未来局
子育て支援課

事業名：子育て支援がつなぐまちづくり事業

1. 【団体の概要】

宮崎市中央東まちづくり推進委員会が実施した、子育て支援モデル事業の活動をきっかけに、子育て世代が中心となり、地域に制限されることなく子育て世代自らが望む支援を行う事を目的に、宮崎市市民活動団体プチ・コパンを平成26年に立ち上げた。その後4年の活動を経て、さらなる取組として、平成30年7月に、誰もが気軽に集える「まちの居場所たいよう（タイヨーグランド錦町店2階）」を新たな活動拠点として、シニアの居場所づくりも含めた新しい多世代交流の場として取り組んでいる。

2. 【事業の目的、ねらい】

活動拠点である宮崎市中心東地域の人口は、マンションの建築などにより増加傾向で、子育て世代の住民も増加している。しかし、転勤者や移住者が多いため地域のつながりが薄く、コミュニティ力の不足という課題を抱えている。また、自治会加入率も35.3%と低く、地域における住民交流の場の必要性を感じ、子育てを支援することで新しい地域のきずながつくられるまちづくりをねらいに実施する。

（※自治会加入率 平成29年6月1日現在）

3. 【活動内容】

下記のとおり、子育てに関する講座や交流会を開催しました。

日時：平成30年6月12日（火）～平成30年12月26日（水）

講座総数 41回

場所：①まちの居場所「たいよう」・・・(a) で標示

②宮崎市男女共同参画センターパレット・・・(b) で標示



(1) [子育て支援] 20回実施

子育て世代からのニーズが高い「食の講座」や「体ケア講座」、「親子向け講座」を託児付き講座とすることで、孤独な子育てにさせないような交流や心のサポートにも力を入れることにした。

講座後には、母親同士の交流で産後うつが改善された参加者もいて、日々の生活に役立つような学びを取り入れたことで、参加者からの評価も高く、講座回数を増やして欲しいという声も多く聞かれた。

①食の講座（5回）

- ・スムージー講座（a） 6月12日
- ・ロースイーツ講座（a） 6月26日
- ・託児付きローチョコ講座（b） 11月17日
- ・託児付き離乳食講座（b） 11月19日
- ・託児付き五感ワーク味覚編（b） 12月3日

②体ケア講座（7回）

- ・産後ケア（a） 7月10日・24日
- ・託児付き産後ケア（b） 9月28日/10月26日/11月30日
- ・託児付き五感ワーク視覚・聴覚編（b） 11月26日
- ・託児付き五感ワーク触覚・嗅覚編（b） 12月10日

③親子向け講座（8回）

- ・おこづかいワーク（a） 8月4日
- ・林和豊先生乳幼児向けお話会（a） 8月23日
- ・子育て世代向けお金の話（a） 9月6日
- ・林和豊先生思春期向けお話会（a） 11月1日
- ・乳幼児期のカラダの使い方（a） 11月7日
- ・プログラミング教室（a） 11月17日（2回開催）
- ・音脳リトミック（a） 11月22日

(2) [多世代交流] 18回実施

①障がい者支援も兼ねた、アートワークショップ（書道など）を通して、イベント参加者に、人が支え合う大切さや人の素晴らしさを肌で感じてもらうことができた。また、子どもの視点ならではの会話が良い雰囲気を作っていた。



- ・あわいやワーク (a) 6月 27日
- ・子ども合宿 (a) 8月 1日
- ・子ども合宿 in あわいやワーク (a) 8月 22日



② 40歳以上の女性限定という幅広い参加者募集の表現により、40代～80代の参加があり、多世代交流が実施され、キャンセル待ちが続くほどの人気講座となった。

- ・40歳以上女性限定ひめトレ骨盤底筋体操 (a) 全7回
6月 20日 / 7月 13日 / 8月 10日 / 9月 26日 / 10月 10日 / 11月 21日 /
12月 5日

③ 参加者の親子だけではなく、参加者の祖父母や親戚などの見学者があり、多世代交流につながるイベントができた。

施設がバリアフリーということで、車いすでの来所もあり、見学者から好評な意見が聞かれた。

- ・赤ちゃんハイハイ競争 (a) 全2回 8月 4日 / 9月 22日

④終活講座内の血管年齢測定は皆さんに好評で、講座後に個人的に相談したいという声があり、個別相談会を実施した。また、携帯電話の使用に関する相談も多く、サポーターによる使用方法のアドバイスが好評であった。

- ・終活講座(a) 全2回 7月11日/8月21日
- ・終活個人相談(a)全4回 10月19日/11月16日/12月14日・21日

(3) [ボランティア育成] 3回実施

傾聴や認知症サポーターなどの講座を受講してもらい、「まちの居場所たいよう」で実際に子ども連れでもできるボランティアとして活躍してもらい、参加者がスキルアップを実感しながら地域の人材育成を行うとともに、世代間交流につながった。

- ・認知症サポーター養成講座(a) 7月17日
- ・支援者側の自己ケア講座(a) 12月22日
- ・サポーター研修(a) 12月26日

4. 【事業の成果、効果】

子育て世代だからこそわかるニーズの高い講座の企画運営を行い、申込み方法も、手軽にできるQRコードを使ったメール、SNS発信、無料掲載できる情報誌などを利用するなど工夫をしたことで、参加者も増えた。

子どもと一緒にボランティアに参加した母親達のおかげで多世代交流や、障がい者アートなどの多様な文化交流も行うことができ、当初のねらいである、子育て支援を目的とした世代間交流を実施することができた。

5. 【まとめ】

地域内の各団体と連携を図りながら、住民視点に沿った講座等を多く実施した結果、キャンセル待ちがでるほどの人気の講座も増え、補助終了後も同じような講座が継続できている。また、シニアの居場所づくりと地域交流として、生き生き地域活動応援事業を利用した団体、「えんがわひなた」との協働も生まれ、継続して活動ができている。

託児委託先としても新たに「あん・あん」との協働が生まれ、NPO法人「ままのて」等、安定した協働活動を実施できる団体が増えました。今後様々な講座に子育て世代のボランティアが関わることで、多くの地域団体を知り、地域の課題を掘り起こし、人が支えあう大切さや、違いを受け入れられる地域づくりの観点から、本事業によって人材育成の効果を得ることができた。